

令和5年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和6年3月19日（金） 15：00～16：30

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員10名：笹倉剛、市浦央子、吉田香代子、小西孝子、高瀬由美、衣笠朋子、
金澤泰子、吉村靖、柳良典、鷺尾小百合

教委・図書館2名：菅野教育長、伊藤館長、民輪館長補佐

欠席者 なし

1 開会 民輪館長補佐が開会を伝えた。（15：00）

2 あいさつ

(1) 会長あいさつ

図書館協議会で出された委員の意見が取り入れられ、図書館が着実に変わってきている。例えば、学校図書館と市立図書館のシステムが統一され同じマークが導入されて、どこにどんな本があるかすぐに調べることができ、調べ学習をするにあたり非常に効果的になったこと、レファレンスについて丁寧に件数をつけるようになったことなどがあげられる。素晴らしい図書館に成りつつあると感じている。

「図書館でまちが変わる」という話を聞かれたことがあると思う。私が県立図書館で、最初に聞いたその講演が前川恒雄さんである。前川さんは、東京の日野市立図書館で、ブックモービル、移動図書館を導入し、貸出数で日本一になった。その次に、北海道の人口4,000人ほどの町の図書館に1年間で資料費1億円の予算をつけた。その結果、人々が遠方からも本を借りに来るようになり、図書館で会合なども持つようになって、町の活性化につながった。

また、市の職員を育てるために、図書館職員が市の職員用に本を選んで市役所に運ぶこともした。市の職員が本を読み知識豊富になれば、行政サービスがより良いものになり、町の活性化につながるからだ。

その後、滋賀県立図書館の館長に就任し、日本一の図書館と言われるようにした。例えば、図書館の横に博物館を誘致したことや、住民が自ら調べる知識を蓄えるためレファレンス資料の副本を用意して貸出をするようにした。行政上、図書館は、教育委員会があって、学校教育、社会教育のその下に位置することが多い。滋賀県は、知事部局と図書館は対極にあり、図書館の存在意義が他とは違う。

加西市も「図書館でまちが変わる」ということを考えて、アンケートの結果を分析し、登録者数、貸出数をもっともっと増やして、住民サービスにつなげるべきだ。この協議会で、さらに良い図書館になるために、みなさんに良い知恵を出してもらおうようお願いする。

(2) 教育長あいさつ

会長の「図書館によるまちの活性化」の話を重く受けとめている。この図書館は非常に明るく、日々たくさんの方に利用していただいているが、さらに、様々な方にきていただく工夫も必要である。この後、事務局から報告、説明をするが、いろいろな形で図書館ではコンサート

やお話会をしている。その中で、子どもたちが本を読むことはとても大切なことで、いかに今の子どもたちが本を読んでいくか、読ませていくか、さらに、幼いときから本を読む、経験をつむ、家庭でお母さんが読んであげたり、または違うところで読んだりという経験をいかにさせていくかを考えることも、とても大事である。そのための企画もしながら、市全体の本に対するマインドを少しでも上げていければと思っている。

3 報告・議事事項

民輪館長補佐から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

- (1) 令和5年度図書館利用状況と蔵書点検結果について (民輪館長補佐説明)
- (2) 図書館アンケートについて (伊藤館長説明)
- (3) 令和5年度第1回図書館協議会での要望等について (伊藤館長説明)
 - ア 新しい教科書の関連図書購入について
 - イ 学校司書の配置について
 - ウ 図書館カードの市内登録率について
 - エ レファレンス件数の内容について

委員：前回の会議で要望したことをすごく真摯に受け止めてくれている。学校司書の配置については見送りになったが、市の図書館が今後もサポートをしてくれることは心強い。また、私の知らないところで、たくさんの学校とすでに連携していることも改めてわかった次第だ。

冒頭に会長からもスマート図書館システムの話があったが、導入されてちょうど1年になる。学校図書館と市の図書館が同じシステムで統一されたことによって、紙媒体で貸出処理をしていた学校が半分以上あったが、全て電算化され、貸出処理がスムーズになった。登録や廃棄について、市の図書館が間に入ることで、担当者の業務負担が少し軽減されている。もう1つは、今後、担当者が変わったときでもシステムが統一されているので、引継ぎがスムーズになると思う。それから、電子図書館や電子読書手帳の利用については学校間で差があるので、来年度も、図書館と学校等との連携としてその研修を担当者にして欲しい。

子どもたちの読書離れや二極化などが問題になっているが、各学校では図書委員会が読み聞かせをしたり、子どもたちの読書量を増やすためにシールラリーのような競争をしたり、読書の分野を広げるためにスタンプラリーをするなど工夫をしている。

その中で、私の学校でよかったと思うのが、自分たちが読んで欲しい本を1冊選んで購入し、POPと一緒に全校生に紹介するという取り組みである。今年度は子どもたちに卒業記念として自分自身が学校に残したいものは何かと聞くと「本」であった。卒業記念として、1人1冊ずつ本を選んでPOPと一緒に卒業式の会場に置く予定にしている。

学校の取り組みの他に、例えば市の図書館、お話の会ぶらんこやかさい・えほんの森の方が学校で読み聞かせをしてくださることで、今までは本が嫌いだった子どもも本は面白い、こんな本の読み方があるなど発見があり、とても良い刺激を受けている。

委員：開会前に、加西こども園の園長先生からお話しの会ぶらんこの去年の活動に対して、子どもたちからのプレゼントをいただき、うれしく思う。新年度も同様の読み聞かせの日程をいただいでいて、とてもうれしいことだ。学校に行くと、校長先生とお話する機会が多いので、

先ほど先生も言われていたように、各学校で子どもたちの読書離れについて、どうしたらいいのかと悩んでいることがわかる。先ほどの話を聞いて、私たちの活動は、絵本を選んで持って行って読むだけのことで、本と人をつなぐその媒体になっていることや、それから今回のように、子どもたちからプレゼントをいただくと、単にお話を届けに行くだけではなく、そこに人と人をつなぐ力のある絵本を通して、人と人をつなぐ役割を担っているのだと思った。また、市の図書館から私たちは本をたくさん借りていて、その関わりを通して、子どもたちが健全に育っていったら、長年ボランティア活動をしている私たちの喜びになる。この活動を通じて、先生方の子どもたちに対する思いが少しずつ良い方向に前進しているのなら本当にうれしく思う。

委員：市内登録率が3割で止まっているという現状について思うことがある。アンケート調査にもあったが、やはり加西市も高齢化が進んでいる。交通手段の問題もあり、若い人は身軽に図書館に行けるが、幼児やお年寄り是非常に難しい。何とか明石市のようにブックモバイルという形がとれないものか。冒頭に話したように、東京日野市の図書館で前川恒生さんがブックモバイルに本を積んで、地域を回って、貸出・返却をしていた。高齢化が進んできたらますます大事である。もちろん電子書籍を読むということもできるが、やはりまだ紙媒体の本というのは力があると思う。早めに予算化して、実現すると市内登録率も5割は超えるのではと思う。一番に市民に税金が還元されるのは、施設で言うと図書館である。ぜひ、高齢の方、幼児の方にも本が行き届くようにブックモバイルの導入を図書館から提案していただきたい。実現すれば、確実にその事業に人材が必要で、本の準備や貸出・返却で事務が大変になるのだが。

加西市は、給食費も無料になるなど、先進的な取り組みをしているので、学校教育だけではなく、社会教育でも、図書館が先進的に取り組むことをして欲しい。

委員：先ほど言われたように図書館を利用するのに、車でしか行けないというのは不便である。私の知り合いの方も免許証を返納されてる方がおられる。コープ加西店が「買い物ん行こカー」といって高齢者を自宅から加西店まで無料で送迎しているので、もし連携ができるのであれば、そのまま図書館にも行くという形をとればよいと思う。

ブックモバイルも素晴らしい案だと思う。自分たちが行く場所、集う場所に、本という目的があれば、行く回数も増える。行く場所をつくるというのもいい方法だと思う。

そして、例えばポイントカードや健幸ポイントなどのように、何冊か借りたらポイントをつけるなどの特典があれば、みんなが利用しようとなる。それが進むと触れ合いの場にもなるのではと思う。若者には電子図書を読んだら「いいねポイント」をつけるなどできればよいと思う。電子図書はこれからもっと増えていくものなのか。

事務局：ある程度の冊数になるまでは増やしていきたいと考えている。電子図書の場合、無期限で1度購入したらずっと読めるものもあるが、有期限のもの、例えば、期限が2年間や52回借りたら使えなくなるというものも多くあり、それを含めて買い続けないと、実際に読める冊数は増えてはいかない。少しずつでも増やしていきたいと考えている。

委員：私は利用したことがないので電子図書は詳しくわからない。画面で文字を追って読むということがもう年齢的に辛いし、あまり興味がないというものもある。この前、ある小学校に行ったとき、校長先生が今はそういう時代の流れになっているからと渋々と利用している感じで言われていた。校長先生としては、やはり紙の本を子どもたちに手に持って欲しいと思われて

いると感じた。私もどちらかというところである。小さいときの五感、本を持ったときの紙質やにおいを感じて、そこから人として成長して欲しいという思いがある。学校での電子図書の使い方、子どもたちがどのように使っているのかはわからないのだが、本当は子どもたちがどう思っているのか、何を望んでいるのかと思う。自分が本を借りるときに、孫たちが興味を示す本を借りてあげるととても喜ぶ。本を手にしたときの子どもたちの喜ぶ様子は良い。

子どもは図書館に行こうと思ったら親に送ってもらわないと行けないことが多い。だから子どもたちは本に少し大人というものを感じて、憧れがあるのではないかと思うので、このようなアンケートを学校向けにぜひ、実施して欲しい。図書館でこのアンケート用紙を見たときに、どれぐらいの回答が集まるのかと思ったが、回答数合計 699 件という結果は多かった。Web で答えた方には健幸ポイントがつくようにしているので、このポイントは答えてもらうためにつけたのだと思った。市民の意見を聞いて欲しいけど、興味を持ってこのアンケートに答える人はどれぐらいいるのかと思う。図書館内で回答した合計 16 人のうち紙の 7 件というのは、私達のグループのものが回答した。私も紙に書いてアンケート箱に入れたが、こんと音がしたので、箱の中が空だと分かった。その状態でこれだけの数字がでたのはポイントのおかげだと思う。この結果には偏りがあると思うので、ぜひ、子どもたち向けのアンケートをしていただけたらと思う。

委員：Chromebook を使用してアンケートは簡単にできる。子どもたちは、Chromebook で電子図書も読むことができるが、一旦は電子図書に興味を示すが最終的には紙媒体の本に戻っているような気がする。まだ電子図書の種類も少ないと感じる。

委員：最近、学校教育の補助をしようと、図書館ボランティアのメンバーと地域の方と一緒に小学校で九九のチェック係をしている。九九を覚えるには家庭でも毎日復習してこそ暗記が定着していくので根気が要る。九九をどう覚えるかという、そのまま普通に言う、逆に言う、それからバラバラで言うということ繰り返す。しかし、その覚え方が Chromebook の中に入っていたのだ。ボランティアは九九のカードを作っていたのだが、子どもたちは Chromebook を使って、さっさと九九を読んでいく。Chromebook も実際に役に立つものは子どもたちも使う。

子どもたちが Chromebook で電子書籍を読むのは、少し短いお話が適していると思う。しかし、本に関しては、やはり手に取ることが嬉しいと思うので低学年の間にその習慣をつけていくことが必要である。

コロナ禍で貸出数が下がり、それをどうやって元に戻していくか、先生たちも、図書ボランティアも頭を悩ましているところだが、皆さんの話を聞いて、いろいろな方法があるのだなと思った。ポイントやブックモービルのアイデアも良いと思った。それをするには、発想の転換が必要で、いろいろなことを考えなければならないが、まずはやってみる、やるにこしたことはない、考えるばかりでは駄目で何か動き出すことも必要だと、今日の会議で改めて思った次第である。

委員：テレビ番組で「紙媒体の本を読みますか？それとも、電子の本を読みますか？」というアンケートを取っていて、若い方は電子書籍を好む結果が出た。メリットは端末があったら直ぐに読めるし、そこからすぐに検索できるところだ。デメリットはその場に端末がないとすぐに読めないことだ。そして、紙媒体の本は図書館で借りたり、本屋さんで購入しないと行けないが、今の子どもたちは学校でもタブレットを使っているのだから、電子か紙かというのは、子ど

もがどちらかを選んだらいいと思う。しかし、私自身は、子どもの頃は紙媒体の本の方が印象に残りやすいのではないかと思う。

委員：先ほどの意見で紙媒体の本の方が印象に残るだろうというのは同感である。絵本を見せたときに、絵本をさわりたいという思い、絵本の訴えるものを感じることがすごく大事だと思う。大きさも違うので、実際にその本が見せてくれるイメージの強さは紙媒体の本にある。電子の本は画面だけで、大きさが制限されている。だから、初めて本を持って喜んでいる子どもたちを見ていると、収まりきれない感動は本のもつ強い力だと思う。Chromebook で電子書籍を読むこと自体が悪いわけではないのだが、それよりも、紙媒体でいかに感動を与えるかということが、自分としては大切だと思う。

委員：今日も図書館の映画会を見てからこの会議に出席している。図書館ではいろいろな催しを考えて開催している。資料を見ていたらほとんど参加しているというほど大好きなところである。映画会で音声止まることが多いと思うが早く修理をしてほしい。

2月の映画会で白黒映画の「昼下がりの情事」を見た。見る前は白黒映画なんてどうかと思ったが、白黒と感じさせないぐらいとてもよくて、偏見で物事を考えたらだめだと思った。図書館は良い映画を選んでいると感心している。

廃棄する本をリサイクル本として還元していて、私も利用している。読み終えたあとは、リサイクルコーナーに戻せないことになっているので、どうしたらよいかと思う。それと、廃棄する本はどのように選ばれているのか知りたい。

事務局：図書館の書架の設計が20万冊のため破損汚損のひどいもの、長年借りられていないものなどを選んで、受け入れ図書数を目標に約8,000冊の除籍をしている。破損汚損のひどいものは廃棄するが、それ以外のはリサイクル本としている。

委員：京都から加西市へ引っ越してきたときに本を全部処分した。本は1回読むと2回目は読まないことが多いから、買わずに借りることにしている。今は年間150冊程度借りて読んでいて、読書手帳が11冊になった。とにかく本がなかったら落ち着かない。

本を読む習慣はすごく大事なことだ。子どもの読書離れを止めるためには、家庭での役割が大事で、保護者の影響がある。保護者が本好きであれば読み聞かせもするし、子どもも必ず本を好きになると思う。一緒に本を借りたり、親が借りて子どもに与えることも大事である。

私が京都の学校に勤めているときに、こどもが図書館に入れて欲しい本を選び、購入するという取り組みをした。やはり自分が選んだ本が図書館に並ぶと借りたいと言って取り合いになったこともあった。京都も読書活動に力を入れていて読書手帳、読書貯金をしていた。子どもにとって、その時代時代にしか読めないような本があるので、小さいころから家庭で読書を楽しんで欲しい。子どもは忙しくて、受験になると参考書が本になってしまうのは寂しい。本は本当に自分の心の栄養になるものだといつも思っている。

委員：図書館のアンケートを館内で書いたのは7人だけという結果に驚いた。もっと多いと思っていたからだ。図書館に求めるものは多岐にわたっているが、1つ1つ丁寧に対応していると思う。

高齢の方、遠方の方のところへ本を届けることについて、今は公民館や総合教育センターを通して届けるようにしているが、先ほど話にでたブックモバイルを導入することも良いと思う。地域の方が地域交通に取り組んでいるように、図書館も半年間試してみるとか、コープと連携

して図書館まで足を運んでもらうなどして、その取り組みを全体に知らせるようにするとさらに良いと思う。

また、個人的には図書館が好きなので、図書館の書庫が見たいと思っている。閉架書庫にある本をいつも一緒に取りに行きたいが、無理なので残念だ。結局は、子どもたちや大人が興味ある、面白いと思うことを形にして、それを発信していき、また反対に提案をうけるなど、いろいろなことを実践しながら、ひとりひとりの人との繋がりを広げていくことが大事である。

委員：園として反省しているのが読み聞かせが保護者の方に浸透できていないことである。園でも、年齢ごとにアンケートを取る機会があり、「寝る前に読み聞かせをしているか」という項目は、全くゼロではないのだが、やはり少なくなってきていると年々感じている。でも「どんな本を読んでいるか」という項目では、例えばおはなしの会ぶらんこさんや、担任が読み聞かせをした本や園で紹介した本の名前が多く上げられている。特に2月は、お話を媒体とした劇遊びをすることがあり、その影響で、お母さんと一緒に図書館に行って同じ本を借りてきたよという話を聞いている。

園には園文庫があり、加西こども園は、たくさんの園が合併しているので古い書籍がたくさんある。先ほどの図書館の話ではないが、子どもたちがここ数年借りていない分厚い昭和の本は処分を考えていかないといけないと思う。

また、交通の話が出たのだが、九会地区には北条鉄道があるが、子どもの足で中野町から最寄り駅まで歩くことはできない。せっかく北条町駅前に図書館があるので、気軽に行けたらと思う。ねっぴーバスを使うにも登園前の時刻に来るので、時間が合わない。北条に勤めてたときは、子どもたちと歩いて図書館に本を借りに行っていた。子どもたちが大好きな鉄道、レールバスに乗って、図書館に行っているいろいろな本に巡り会えるように実現できればいいと思う。

委員：私も最近本を読んでいないと思った。子どもや仕事を引退されてある程度自由な時間ができた方にとっては手の届くところに本があれば読みたくなると思う。

私は生涯学習に関する相談を受けている。いろいろな相談があって、例えば、畑で作物の育て方を詳しく知りたいという相談があり、図書館へ行くことを薦めたが、その方は、図書館は遠いし、借りてもまた返しに行かなければならないと思うと足が遠のいてしまうと言う。公民館さえも遠いと言う。それならば、ブックモバイルで小学校に本を運び、小学生も借りるが、そこに高齢の方も来て自由に本を借りることができるようになったらと思う。これから小学校の数が減るので、公民館と同じ条件になってしまうのだが。

委員：公会堂を使うという方法もある。

委員：今、マックスバリュが食品などの移動販売をしていてバスで運行地域を回っている。例えば、借りたい本の予約を受け、次回来るときに提供するなどできたらいいのと思う。コープの個配もある。かなり難しいと思うが、そういうことが民間と連携できるような仕組みができればいいと思う。

委員：そういうことを進めている地域がもうある。そういう時代がすぐに来る。高齢化が進むと限界集落が増えてくるから、絶対に必要になる。

委員：地域のお店も減ってきて、北条に行かないと本も借りれない、買えない状況なので、もういろいろなものに乗って、まるでスーパーマーケットが地域を回っているかのようになればよいのにと想像した。

事務局：本日、皆さんから頂いた意見について、話をさせていただく。

ブックモバイル、移動図書館については、特別な仕様の車になるので、かなり金額の高いものになる。実現には長い目でみていただきたい。条件が整い、次期が来たら進めたいと思う。

委員：かなり前に軽自動車を使って、学校に本を運んでいたことがあったと思うが、それは今はしていないのか。

事務局：学校も忙しくて時間がとれず、受け入れが難しいので出来なかった経緯がある。

委員：今は学校へ司書の方が行って、本の紹介をすることも多くしているようだが。

事務局：学校から希望があれば出前講座などを行っている。その時に本の貸出もする場合があります。

委員：希望だけではなく、いろいろな種類の本をそろえておいて持って行き、その場で借りることができる、図書館カードはなかったら作るということその機会を使って、できたらいいのと思う。そして、お昼の時間や業間で学校に少し時間を作ってもらえたらいいのと思う。

委員：中学校では笹倉先生にビブリオトークをしてもらったあと、司書の方が図書館の本の貸出をしていた。

委員：私はビブリオトークの本を7冊ぐらい出版しているが、それを読んだ東京都のある青年が軽トラックを改造して移動本屋をしている。ブックモバイルは確かに値段の高いものである。そこまでしなくても、軽トラックを改装して試してみるなど、その後の反応を見て、いやもっと大規模にすべきだということになればブックモバイルを購入するというのも良いと思う。

事務局：コープの「買いもん行こカー」については、実際に買物をする時間が限られている。早く買い物が済めば、その余った時間に図書館で過ごしたり、本を借りたりする方もいる。地区ごとに曜日や時間が決まっているので、1つの地区について長い時間を使ってアステアかさいに滞在するのは難しいようだ。

ポイントの話がでていたが、本を借りたら、健幸ポイントやねっぴーPayをあげるというのも、予算やデジタルの関係もあり、連携することもすぐには無理だが近い将来にできるようになればと思う。

図書館として電子書籍を導入しているが、もちろん紙の本に電子書籍が取って代わることは無い。紙の本はゆるがないものである。電子書籍はちょっと調べたいときや旅行するときに荷物にならないなど良いところがある。良いところを使い分けて、皆さんに利用して欲しい。

4 連絡事項

令和6年度第1回図書館協議会の日程について（民輪館長補佐説明）

5 閉会 副会長あいさつ

私の想像力をかき立てるような、いろいろな案が出た。すぐではなくても実現できたらと思う。本当に目からうろこの意見があり、いつも子どもと接することが多いので、私は子どものことばかりに気持ちが行きがちだったが、図書館を利用される方は子どもばかりではないことも考えてみなさんにとっても貴重な意見を出していただいた。次回も楽しみにしている。

(16:30終了)